

# 高齢者の交通事故防止

近年、交通事故による死者の数は減少傾向にあります。しかし、その中に占める65歳以上の高齢者の割合は増加しています。高齢者の交通事故の多くは、高齢者自身の意識と実際の運動能力や認識能力との違い、また、現在の交通事情への理解が不足していることなどにより起こっています。生活に必要な道路を、だれもが安全に移動できるようにするために、地域に暮らすすべての人が、こうした高齢者の行動を理解することが大切です。

## ●自宅から500メートル以内で6割強が発生

平成15年の調査によると、高齢者の交通事故死傷者のうち6割強は、自宅から500メートル以内の場所で事故に遭っています。

高齢者は徒歩が主な移動手段です。加えて、自宅の周辺は長年暮らしている地域であることが多く、たとえ交通事情が変わっていてもそのことに気がつかず、警戒心も薄くなりがちです。

また、高齢者の中には自動車などの運転免許を持っておらず、交通標識やルールにあまり詳しくないという人も多くいます。

こうしたことから、交通量が増加しても、慣れている地元の道だと思つて横断歩道のないところを渡つたり、自分の家の前だからと周囲を確認せず道路を横断したりすることがあります。実際に、高齢者がかわる交通事故死亡事故の6割強は、自宅から500メートル以内で発生しています。

高齢者の事故が起こる原因の一つに、こうした実際の交通事情と自分の意識に差があることがあげられます。

## ●事故の一因は高齢者の意識と行動の差

視力や聴力、運動能力などは、年齢とともに衰えるものです。しかし、高齢者の中には、それらが若いときと変わらないと考えている人も少なくありません。特に、これまで交通事故などに遭つたことのない人の場合、「自分は大丈夫、事故に遭うことはない」と考えており、高齢者は道路での行動に自信を持っています。

しかし、こうした高齢者の意識と実際の運動能力などの差から、重大な交通事故が起こっているのです。

例えば、道を横断するとき、高齢者側からは車が迫っていることがちゃんと分かっているにもかかわらず、自身の歩く速度が思ったよりも遅くなっていることを理解しておらず、道路を渡りきることができないというケースも多く見られます。

体の動きをコントロールする能力も低下しているため、素早く車をよけられなかったり、予想外に急に迫ってくる車に対して驚き、パニックで道路に立ち往生してしまつたりすることもあ

ります。

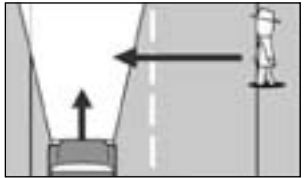
また、高齢になるにつれて体を支える筋力は低下するため、高齢者の多くはうつむき加減で歩くようになり、近づくにつれて視野も狭くなり、遅れたり、自分との距離を正しく判断したりすることが難しくなります。

高齢者の交通事故の多くは、高齢者と周囲の人の双方が、高齢者の交通行動の特徴を理解し、互いに気遣うことで未然に防ぐことができるのです。

### —横断事故で多いのは右からの横断—

高齢者と自動車の交通事故、特に夜間に多いのが、車から見て右からの高齢者の道路横断による事故です。

高齢者は、車が来ることは分かっている「まだ遠い、自分なら渡りきれる」と判断し、道路を横断し始めます。また、夜間の対向車線には車のライトが届きにくく、ドライバーからは、歩行者を発見するのが遅れがちになります。こうした要因が重なって、事故が発生しやすくなるのです。



### 「見える歩行者」とは？

夕方や夜の時間帯には、ドライバーや自転車などから見たときの歩行者は、昼間とは比べ物にならないほど見えにくくなります。いつもどおり、慣れた道を歩いていたとき、車や自転車とものすこいスピードですれ違ったことはありませんか。このとき、ドライバーからは歩行者が見えていない可能性があります。

夜間の交通事故を防ぐためには、ドライバーから見やすい服装を意識することが大切です。

特に白は光を反射しやすく、いつもの服装の上に、一枚白い服をはおることでドライバーからは格段に見えやすくなります。

また、光を反射する反射材を靴や帽子につけたり、鞆などに反射材を使ったキーホルダーなどを取り付けたりすることも効果的。特に、高齢の方の多くは、黒や茶、灰色といった地味な色の服を着ることが多いため、注意が必要です。

歩行者とドライバーの双方が安全に過ごすためにも、こうした服装に心がけるようにしましょう。

